

エディトリアル

大分市医師会立アルメイダ病院産婦人科 部長 佐藤新平

本号の特集は、「へき地医療に挑む若者へー世界で活躍した医師からのエールー」と題して、日本のへき地・地域医療で研鑽を積み、現在、世界各地で活躍されている先生方にご執筆いただいた。国内の地域医療の現場で培った経験と志をもとに、国際保健やグローバルヘルスの舞台へと活躍の場を広げられた諸先生方の歩みや言葉は、へき地医療を担う若い世代の医師たちにとって大きな道標となるものだと考えた。

対談いただいた國井修先生(公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金:GHID Fund. CEO)には、上梓された「世界に飛び立て! 命を救おう! グローバルヘルスを志す人 リーダーを目指す人のために」(南山堂, 2023年4月)にはあまり書かれていない先生の高校生・医学生時代から国内でのへき地医療・地域医療〜外務省, UNICEF, 現在のGHID Fund.のお話をお伺いし、へき地医療に従事している若者の悩みと思われることについてのご意見をお伺いした。

特集記事をご執筆いただいた大場次郎先生(国立健康危機管理研究機構危機管理・運営局)、池野文昭先生(Stanford University Cardiovascular Medicine)、西山幸子先生(元第57次南極地域観測隊)、柴田和香先生(WHOラオス人民民主共和国事務所)、山下大輔教授(オレゴン健康科学大学家庭医療学講座)、中村安秀理事長(公益社団法人日本WHO協会)、喜多洋輔先生(外務省国際協力局)[掲載順]には、今回の特集にあたり下記の内容を依頼した。①日本のへき地医療・地域医療でのご自身の経験、②世界の地域医療・公衆衛生活動での取り組み、③今後の地域医療やご自身の展望、④若手医師へのエール(可能であれば若者から連絡が取れるようご連絡先)という4つである。また、読者層としてへき地医療や地域医療に従事しておられた頃のご自身をご想定いただくようお願いした。

本特集を通じて、読者の皆様が各先生方の経験を自らの地域医療の実践に生かし、また将来のキャリア形成を考える若者が新たな視点を得られれば幸いである。地域医療から世界へ、そして世界から再び地域医療へ——その往還の中こそ、普遍的な使命と可能性が息づいているのではないかと思考する次第である。

地域の現場で日々奮闘する若い医師たちが、この特集に登場する先輩方の言葉から、次の一歩を踏み出す勇気とインスピレーションを得られることを切に願う。